

HAMPION チャンピオン

職場で手軽に取り組める エコアクション事例

たとえばこんな取り組みで、環境にやさしく
省エネ効率を高めることができます。

- 照明**
- 業務に支障をきたさない程度の照明の間引き
 - 昼休みの消灯や未使用スペースのこまめな消灯
 - 退社時にすべての照明の消灯確認

- 空調**
- 冷房時の室温は28度、暖房時の室温は20度に設定
 - ブラインドやカーテンを活用し、冷暖房の効率を上げる

- OA機器**
- OA機器のエコモード化を積極的にする
 - 離席時のパソコンのディスプレイOFF

- 水道**
- 水の流しっぱなしをしない
 - 洗剤は適量ですすぎ水を最小限にする

- 現状把握**
- 過去1年の電気、水道の使用量をチェックして今年度と比較してみる

チャンピオンに取り組んでいただきました。
ご覧ください。



～グリーンチャンピオン 事業所ヒアリングを終えて～ 今回ヒアリングを行った推進員さんたちの感想

職場のエコは趣旨が主に「経費削減」なので、指導者がしっかりと上に立ち、各社員が具体的に何をやるか決めて取り組めば意外と簡単に結果が出ます。社員に無理のない範囲で取り組むのも大事なことです。今回は雨水利用を取り入れている企業もあり、大変感心しました。



曾我 古世さん



近藤 純次さん

組織的にエコを推奨する企業はグリーンチャンピオンの役割も発揮しやすそうです。小規模事業所でスタッフが楽しみながら積極的にエコに取り組んでいる事例も印象的でした。地域や自治体が協力して更に良い変化が期待できそうな事例もあり、今後が楽しみです。

みなさん想像以上によく取り組まれていると感じました。エコを推進する役目のリーダーがしっかりしていると、現場での取り組みもかなり効果上がるんだなあということを実感しますね。今後、そこから更に次のリーダーを育てて行くことが大事になると思います。



西岡 親男さん



坂野 耕一さん

メーカー勤務の時に職場で「5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）」に取り組みました。昼休み来客のないフロアは総務担当が一斉に消灯。ブロックごとに自分の受け持ちを決めて終業1時間前に5Sタイムで一斉清掃。ルールが浸透するとエコ意識も当たり前になりますよ。

【地球温暖化防止活動推進員とは】
地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、地域における地球温暖化防止の取り組みを進める者として都道府県知事が委嘱しています。高知県では2015年2月現在、54名の推進員が活動しています。

あとがき

今回の取り組みを進めるにあたって色々な事業所の方々とお話しする機会をいただきました。みなさん家庭で行っているエコの知恵をオフィスで活用し、オフィスで実施しているエコの取り組みを家庭にも取り入れている方が多く「ワークスタイル」と「ライフスタイル」の繋がりを感しました。グリーンチャンピオンの取り組みが浸透することで、オフィスのみならず地域や家庭へも環境について考えるきっかけのひとつになれば幸いです。

高知県地球温暖化防止活動推進センター 中村将大

このリーフレットに関するお問い合わせ先
高知県地球温暖化防止活動推進センター
〒780-0935 高知市旭町3-115
こうち男女共同参画センター3F NPO法人環境の杜こうち内
TEL:088-822-5554 FAX:088-802-2205
EMAIL:center@ecolabo-kochi.jp
http://gc.npo-kankyonomori.com/

※高知県地球温暖化防止活動推進センターは「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき高知県の指定を受け、NPO法人環境の杜こうちが運営しています。
※本事業は環境省「平成26年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業」として関係各社（団体）の協力を得て実施したものです。

H27.2発行

GREEN CHAMPION グリーンチャンピオン

職場で取り組むエコワークスタイルの推進

LET'S
ECO
WORK!



高知県地球温暖化防止活動推進センター
Kochi Center for Climate Change Actions

GREEN CI グリーンチャンピオン

「グリーンチャンピオン」とは

職場の仲間の声を反映しながら、オフィスでの省エネを進めていくエコリーダーのことです。すでに環境先進国では企業や役所などでエコに興味を持つ人たちが自ら「グリーンチャンピオン」となり、職場のリサイクルや省エネを推奨する役割を担っています。無理のない取り組みで環境に貢献する仕組みを作ることが「グリーンチャンピオン」事業の目指すところ。H26年度のグリーンチャンピオンの取り組みは「レベル1」。10の取り組み項目に沿って各事業所のヒアリングを行いました。作業効率を損なわず、省エネルギーに取り組む「エコ・ワークスタイル」をグリーンチャンピオンのみなさんと一緒に、推進していきたいと思っています。

グリーンチャンピオンの取り組みレベル



職場に於けるエネルギーの使用量の把握、手軽に行える省エネ取り組みの実施。



ハード面の対策実施。エネルギーの使用量・CO2削減量の目標設定。



オフィスでの働き方の効率化、ペーパーレス会議の実施など「エコワークスタイル」プランの確立。

今回は9事業所（店舗）、9名のグリーン
詳しくは中面を



GREEN CHAMPION

グリーンチャンピオンレポ-ト

H26年度参加事業所のみなさんの取り組み報告をご紹介します。

高知日産プリンス販売株式会社本社 旭支店

カーディーラー／39名



〒780-0935 高知市旭町2丁目21
TEL:088-822-9112 FAX:088-823-7823

特に消灯に関しては「みんなで気をつけよう」という意識が職場に浸透しています。事務所の機能や効率から考えて電球の間引きはできませんが、早朝出勤時などは自分のデスク周辺の照明だけにして、必要のない照明は極力消すよう心がけています。職業柄、洗車をたくさん使うからこそ「節水」も合い言葉になっています。洗濯機もタイマーをつけて無駄に回しません。お客様のところにクルマを預かりに行くときには、ガンリンより圧倒的にコストも安い電気自動車を使おうと声をかけあい、環境にやさしい電気自動車の普及に更につとめていきたいと思っています。

有限会社 スタジオサイン

システム開発・ホームページ企画・制作／5名



〒780-0843 高知市廿代町15-8とらやビル3F
TEL:088-872-0766 FAX:088-820-3223

繁忙期には朝晩交代勤務になる忙しい職場ですが、普段、来客がないときには使わない照明を極力消しています。手洗いの電気と換気扇も基本、使うときしかつけません。冬の暖房は石油ストーブ、夏の冷房は設定温度内で使うか、窓を開けて風を通したりしています。また、残業すると余分な光熱費がかかり、健康にも良くないということで、今年度から残業を減らそうという取り組みをしました。毎朝15分の短いミーティングでその日の作業状況を確認し、効率アップを図りました。その結果、実際の業務量が変わったわけではありませんが、残業時間が減ることで電気代などの削減につながったと感じます。

株式会社日産サテオ高知野市店

カーディーラー／10名



〒781-5232 香南市野市町西野254-1
TEL:0887-56-5523 FAX:0887-56-5532

工場では電球の間引きをし、基本的に使う場所だけしか照明をつけません。事務所の暖房は夕方寒くなってから使います。工場での仕事が終わったら洗濯機やスチームの蛇口を閉め、コンプレッサーもタンクのエアが抜けないように機械を外してから帰ります。ショールームのスポット照明はLEDに替えてから随分省エネになりました。ここは天井が高いので、白熱球だった頃は電球が切れると取り替え工事が大変でした。それに比べるとLEDにすると電球取り替えの手間がなくなった上に、電気代も大幅に削減できましたね。LEDの初期投資は高くても、余裕で元が取れたと思います。

一般社団法人 香南市観光協会のいち駅売店

観光案内所・販売店／10名



〒781-5232 香南市野市町西野2056(のいち駅内)
TEL:0887-56-5200 FAX:0887-56-5545

昼間は待合室はできるだけ消灯、事務所内も昼休みは消灯します。夜間の照明は電車の運行時間に合わせてタイマーで全消灯されるので「消し忘れ」はなく、トイレの照明や水道もセンサーで無駄な使用を省いています。照明は蛍光灯が切れた場合に限りLEDに取り替えています。ただ、暖房は駅舎がコンクリートで大変冷える構造のため27度で入れており、どうしても高熱費がかかります。駅は安全を考慮して防犯用の照明をもっと明るくするなど、省エネ・CO2削減とは逆に電気がかもつと必要です。環境・安全のためにも、駅舎の屋根に太陽光パネルを設置できればいいなあと思っています。

有限会社 マルクニ

文具卸業／3名



〒780-0928 高知市越前町2丁目7-3 KMビル1F
TEL:088-821-0933 FAX:088-821-0935

必要のない場所は照明を外し、エアコンの温度設定は夏28度、冬20度を徹底して行っており、昨年度と比べて今年の電気使用量は昨年より9%削減できています。エアコンはエコモードで使い、冬場のエアコン使用時には扇風機で温かい空気を事務所内に循環させて暖房効率を上げています。うちの会社は社長がエコに積極的で、日頃から社内でするエコを積極的にやっという社風ですので、エコの取り組みに違和感はありません。私たちは高知県産材を使った家具の普及もしていますが、高知の森林資源を上手に使えば、間伐された森も元気になる。循環型社会の実現を意識して行きたいと思っています。

営業
笠井 博文さん



最近の文具類は、ほとんどが環境に配慮した商品、グリーン購入商品になっています。営業でさまざまな職場を回っていると、そこで使っている文具を見るだけで、みなさんの環境意識もある程度わかりますね。

株式会社日産サテオ高知西店

カーディーラー／12名



〒780-8071 高知市鴨部高町5-31
TEL:088-844-3201 FAX:088-840-4123

照明は外が明るければつけず、工場は12時から13時の間はお客様が来られたとき以外は消灯します。事務所も使っていない場所はこまめに消しています。設備的な問題もありますが、冬の暖房設定が20度では床から足下がかかなり冷え込み、来店されたお客様から「寒い」と言われます。お客様用の膝掛けも用意していますが、20度という温度設定はとても無理だと思います。事務所では電気ポットなどのコンセントは必ず抜いて帰っています。洗い物などは溜め洗いなどの工夫で節水をしています。また工場では、作業用の足マットやハンドルカバー、ビニールカバーなどの消耗品もきれいに使って再利用する努力をしています。

営業課
正岡 亜津美さん



電気ポットのコンセントは必ず抜いて帰ります。誰かがうっかりコンセントを抜き忘れていたりすると、翌日は事務員さんが「抜いてなかったやんか〜」と言っています。やはりそういうところは女性の意識は高いんですね(笑)。

木と人・出会い館

モデルハウス／2名



〒783-0086 南国市緑ヶ丘1丁目1201-5こうちエコハウス内
TEL/FAX:088-879-3304

ここは昼間は充分明るいので、ほとんど消灯しています。暗くつける場合も、スイッチが細かく分かれているので必要な箇所だけ使えます。冬はベレットストーブを使っています。朝ここに来てストーブを点けて午後3時には消しますが、館内の空気の循環システムのおかげで閉館5時まで暖かさを保っています。電気使用量はとても少ないはずですが、一般的な契約と違って検針票がなく、私たちに館の電気使用量がわかりません。エコハウスでエネルギーがどう使われ、料金がどれくらいかかるか知りたいという見学者もいますので、数字として示せるようになれば、エコ住宅の普及にも更にプラスになると思いますね。

館長
塩田 正興さん



建物自体が「エコな暮らし方」を考えて作られているので、暮らしの場面でも省エネを積極的にしながら運営していきたいなと思っています。ここで得たアイデアを取り入れてエコな暮らしをしてくれたらうれしいですね。

株式会社日産サテオ高知四万十店

カーディーラー／16名



〒787-0010 四万十市古津賀4丁目7番地
TEL:0880-34-3888 FAX:0880-34-3900

ショールームも事務所内もLED照明になり、それまでと比較すると電気代も随分削減できていると思います。事務所内のコピー機やFAXはエコモードですが、離席の際のパソコンのディスプレイオフは日頃忘れがちですので、気をつけているところです。ショールームは日当たりが良く、冬場でも寒すぎることはありませんが、夏はとても暑いので冷房は必須です。節水に関しては、カップの茶渋などは激落ちスポンジと少量の水でこすったり、溜め洗いで水を流しっぱなしにしない工夫をしています。また、リサイクルやゴミの軽量化、整理整頓なども推進していきたいなと思っています。

店舗事務
安森 嘉代さん



可燃ゴミもプラスチックゴミも、小さくすると出しやすく、リサイクルしやすいですよ。こういったエコは毎日の癖になれば必ずうまくいきます。これからも周知を進めたいと思います。

ミタニ建設工業株式会社

建設業／110名



〒780-8086 高知市針木東町27-28
TEL:088-844-2111 FAX:088-843-3411

以前から会社の体制として昼休みの消灯などのエコに取り組んでいます。デマンドを置いて使用電力の平均値をなるべく下げようと呼びかけ、社内報やポスターで周知して、それなりの手応えを感じています。今回、室内における取り組みについてはおおむね達成できたのではないかなと思います。空調は冷房時28度、暖房時20度に設定していますが、今年はまだ寒い日があり、その時にはさすがに20度ではとても無理だなと思いました。今後、屋上に蓄電機能のある太陽光パネルを置き、雨水タンクを用いてエコと防災を意識した準備をしているところです。

経理部課長
近藤 泰二さん



過去のデータと比較して削減を図るのもいいですが、これからは未来に向けてできるエコアクションや、エコ設備を研究しようという前向きな取り組みも必要になってくるだろうと思います。